

子供たちも 人権の大切さを訴えています

子供たちは学校や地域で人の命の重みや人権の大切さを学んでいます。子供たちが人権学習で学んだことを、気持ちを込めて書いた人権作文を紹介します。

お母さんのおいしい料理

宇智小学校 4年 今田 有香さん

わたしは、いつもではないけど、お母さんの料理をときどき食べます。

わたしのお母さんは、外国人です。おかあさんの国の料理は、からいものが多いです。

だから、からいものしか作れないのかなと思っていました。「お母さんは、日本の料理も作れるんだ。」と初めて知ったのは、一年生のときでした。

お母さんは、夜、仕事に行っています。だから、仕事に行く前に夕ごはんを作っておいてくれます。夕ごはんは、お母さんが仕事に行く前にいっしょに食べますが、ひとりで食べるときもあります。

お母さんは、とてもやさしいです。そんなやさしいお母さんを見て思ったことがあります。

お母さんは、一生けん命に赤ちゃんのときから育ててくれて、おいしい料理をたくさん作ってくれています。四年生になっても、おいしい料理を作ってくれたり、ベッドをきれいにしてくれたりします。そんなお母さんが、だーいすきです。

わたしは、「ほんとうは、日本人のお母さんの方がいいなあ。」と思ったことがありました。お母さんは、タイの国の人なので、タイの言葉を上手に話しますが、日本語はあまり上手に話せません。お母さんが日本人だったら、もっとすらすらと日本語が話せるのと思います。そして、日本の文字も読んだり書いたりすることができるのになあと思いました。わからない文字は、わたしが教えます。お母さんにかわって、わたしが書くこともあります。

でも、外国人のお母さんもいいかもしれないと思うようになってきました。

お母さんの家族がタイにいます。ときどき電話をします。わたしがおばあちゃんと話をしたいというと、お母さんが、タイ語で、

「むすめにかわるね。」

と言って、わたしに、

「ヤーチャイ、サワディーカーっていうやで。」

と言って電話をかしてくれました。お母さんが言った通りに言うと、おばあちゃんが、

「サワディーカー。」

と返事をしてくれました。うれしかったです。お母さんが、おばあちゃんとの話が終わってから、わたしに、

「おばあちゃんが、『うれしかったよ』と言ってたよ。」

と話してくれました。わたしは、とびはねてよろこびました。とってもうれしかったです。おばあちゃんの声が聞けたし、言葉が通じたからです。

この日は、水曜日だったので、仕事が休みでした。夕ごはんは、かに料理とみそしるとつけものでした。おいしかったです。けんかをしたり、ないたり、おこったりするけど、そんなお母さんが、わたしは、一番すきです。

来年、お母さんがタイへ帰ります。わたしもいっしょにつれていってもらいます。おばあちゃんたちにあえるのを今から楽しみにしています。

五條市人権教育研究会

人権作品集「くらしをつづる」二〇〇五年度第三十九集より

幼児・児童・生徒の皆さんへ

こわいめに あわないために “イカのおすし”



◎ 知らない人についてイカない

◎ 悪いさそいや車にのらない

◎ おお声を出す

◎ すぐにげる

◎ おとなの人にしらせる

★黄色い旗のおうちやお店がみんなを守ってくれるよ。

■問合先 青少年センター ☎24・3004